

今年は何明治150年 館山は明治時代にどう変わった？



戦国時代の終わりに安房の大名里見氏が築いた館山の城下町は、海上交通の拠点として江戸時代も町場が維持されてきました。その町が安房地方の中核都市と位置付けられたのは明治時代のことです。

今年は何明治元(1868)年から起算して満150年。明治維新後の欧米文化の影響と富国強兵を目指す政府の殖産興業政策によって、産業や暮

らしの環境が大きく変わっていったのが明治時代です。そして全国的な近代化の波は館山にもやってきました。

海を通じて東京に近く、気候が温暖な土地柄だったことで、交通手段が変わった明治時代には様々な人々と交流する場ができていきました。そうした人々との交流が、館山の近代化に大きな影響を与えていたのです。

展示の導入では、政府が開催した

勸業博覧会が欧米文化の進取と日本文化の見直しをとまなうかたちで人々に受け入れられ、館山でも多数の人々が出品する中で技術の精度を上げていき、館山でも各産業分野での品評会が開かれて、より多くの人々が競争心と向上心を持って新たな産業の発展に向かっていったことを紹介しました。

次の章では、殖産興業への準備のための様々なインフラが整備されたことを紹介しました。具体的には、産業育成に必要な資産を供給する銀行の設立、郵便・電信などの通信網

の拡大、そして東京との汽船航路が開かれたことにもなう陸上の道路整備です。

本編では、館山の各種産業にも新しい技術が導入され、改良が加えられていったことを紹介しました。農業では温暖で東京に近い利点をいかした野菜の促成栽培と果樹栽培の導入が始まります。

水産業では沿岸から沖合へ漁場が移ったことに対応して漁船を大型化する取組みや、鮑漁の器械化などの従来の漁村の変化だけでなく、館山湾が実験的な遠洋漁業の基地になり、近代水産業を学ぶ人々を多数受け入れるようになりました。畜産業では安房地方が酪農王国といわれるほど成長し、鉱業では白土採掘事業が特徴的な産業に成長しました。とくに汽船場への物資の集中は町の拡大をもたらし、中核都市への歩みにつながったのです。

この企画展では、発展・飛躍といえる近代化の歩みを果たした館山の変化を、交通と産業の変化という視点から紹介しました。人のネットワークによって作り上げられていった明治という時代、館山ではどのような近代化がおこり、現代にどのような結びつきがあるのか。地域に伝わる歴史資料を通して、館山の近代化を考えたいだけではないでしょうか。

あいのほま めら
相浜・布良のお宝大集合

新・地区展「富崎—海と生きる人々—」

市内10地区の歴史と文化財を紹介する「新・地区展」シリーズの第6弾として開催しました。

純漁村の富崎地区にある相浜と布良の2区に残されてきた資料には、漁村ならではの歴史と生活が凝縮されています。そこには、平砂浦沿岸を漁場に網漁を行ってきた相浜と、布良瀬という魚の豊富な磯根を漁場とする布良との気風の違いも見え隠れしました。

漁船事故だけでなく、狭い土地に火災や地震隆起・流行病などの災厄も繰り返されるなか、地域有力者の強い指導力で人々の生活が近代化していく様子や、海に暮らし海でつな

がる人々の信仰の様子なども紹介しました。

現地の文化財を見て歩く「わたしの町の歴史探訪」には、悪天候で延期になったものの20名の方々が参加されました。



315年ぶりに感動の再会！

那古寺開創1300年記念展

「繡字法華経の世界—受け継がれた宝物—」

古くから観音霊場として信仰を集めてきた那古寺が開創1300年を迎えたのを記念して、那古寺の全面協力のもと、貴重な文化財を公開する展覧会を開催しました。

メインの展示資料となった「繡字法華経」（千葉県指定文化財）は、中国元朝の時代に平江州（江蘇省）の女性たちが制作したもので、元禄15年（1702）に京都智積院の9世有鏡から贈られました。

今回は、同じく有鏡から贈られ、宝珠院（南房総市）・智積院（京都府）に伝来する「繡字法華



経」を初めて一堂に集めて公開しました。また、近年の修理によって室町時代の作と判明した多

宝塔本尊の宝冠釈迦如来坐像なども展示し、那古寺のあらたな二面を紹介することができました。刺繡されたお経は国内でも大変珍しく、まとまった形で見られる機会とない機会ということ、県外からも多くの方が訪れました。

みんなでお宝大集合
八犬伝を楽しもう

小学生による八犬伝活用プロジェクト

小学生や先生にもっと博物館を活用してもらいたい！ そんな思いを込めて、今年度は「小学生による八犬伝活用プロジェクト」を実施しました。

市内10校のうち、北条小4年生と館山小5年生が、学級担任と学芸員のサポートのもと、地域ゆかりの文学作品『南総里見八犬伝』の調べ学習に取り組みました。

「八犬士で一番強いのはだれ？」「8つの玉って本当にあるのかな？」など児童の視点はずまざま、担当学芸員も多くのことを教えられました。

活動の成果として、あらすじ・登場人物などを紹介したリーフレットと、クイズ形式のワークシートを作成し、今後の博物館活動で活用していきます。

また2～3月には、児童が制作した作品や写真を展示した活動紹介展を開催しました。



寄付資料 一覧

ご協力に感謝します

寄贈資料名	寄贈者(敬称略)
砂取区有文書	南房総市 砂取区
甲冑、袴 他	千葉市 恩田 利章
お札板木、採集土器類	館山市 渡辺 喜久子
半纏・腹掛け・煙草盆	館山市 佐野 博章
『安房国里程表』	館山市 金木 幹人
元文小判	館山市 山口 正
軍服、軍刀 他	埼玉県 長澤 純
古文書	東京都 岡崎 泰士
押切	南房総市 斉藤 貞幹
古写真	館山市 山口 浩一
池田弘齋画「西岬海岸」	館山市 矢矧 文子
うちわ製作道具 他	館山市 多賀谷 裕一
艦	館山市 北山 武雄
絵はがき 他	南房総市 小澤 忠雄
『南総里見八犬伝』版本	市川市 斉藤 敏子
絵はがき 他	神奈川県 田村 成一
對馬郡夫氏研究調査資料	鋸南町 對馬 桂一
漁具	南房総市 古宮 洋
石油ランプ	館山市 石井 俊道
四つ玉そろばん	南房総市 福原 宣之
藤八拳士俵 他	松戸市 笹谷 明

ピックアップ八犬伝

うけえ 「有卦絵」 「船有卦七富乗合」とタイトルのついたこの錦絵、船の上に乗らせているのは6人。七富というのは、人数のことではないようです。この6人の名は、左から「福禄寿・ふじ娘・経津主命・ふか七・不破伴左衛門・伏姫」とあり、八犬伝の登場人物「伏姫」のような芝居の登場人物も含め、それぞれ庶民に知られた著名人です。

安政元年(1854)12月に出版されたもので、作画は歌川芳直。上段の説明文には「安政二乙卯年二月十日、金性の人うけに入」とあって、年明けの2月10日に「金性」の人が「有卦」に入るとお知らせし、「金性」の人とは、左上の枠の中に書いてある年令になる人だという説明です。

暦で7年間の吉運の年回りに入ることを「有卦に入る」といい、5年間の凶運に入る場合は無卦といって、当時の庶民はとても気にしていました。頭文字に「ふ」がつく言葉は

福に通じるとして、七つ揃えて祝うことで福がやってくると信じました。この絵の残りの「ふ」は「船」ということです。



No.1の座は誰に!?

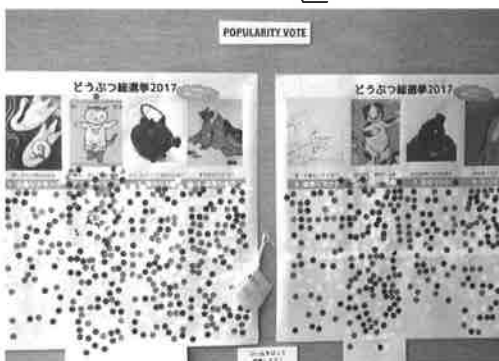
どうぶつ総選挙2017

夏の収蔵資料展「どうぶつ大集合」では、会期中にどうぶつ総選挙を実施しました。展示資料の中からエントリーした8組は、いずれも個性豊かなメンバーで、夏の暑さにも負けない熱戦が繰り広げられました。開票結果は次のとおりです。

- 1位 陽気でかしい人気者 ながぐつねこ 211票
- 2位 はじける笑顔の芸達者 おどる犬 194票
- 3位 育ちの良さがうり 抹茶たぬき 171票
- 4位 チャームポイントはおちよぼ口 蚊やりぶた 163票
- 5位 お味見イカが? ヤリイカ 146票
- 6位 美しさなら負けません 白鳥シスターズ 106票
- 7位 背中で語るニクイやつ 波乗りうさぎ 105票
- 8位 小さな体に大きな勇氣 見守リシシ 88票

投票総数は何と1184票!

途中ペースが足りなくなり追加するほどの大人気企画となりました。途中までは「おどる犬」が1位を走っていましたが、近年の猫ブームに乗った「ながぐつねこ」が、ニャンとラストスパートで追い越す結果となりました。今後の収蔵庫の勢力争いに影響を及ぼしそうです。





博物館のぞきどくと「ダイジェスト」

平成29年4月～30年2月

◆平成29年4月

- 2日 歴史体験教室「甲冑を着よう」開催(日曜・祝日に実施)。
- 25日 館山城で「ぶらぶらサタデー」(フジテレビ)撮影。路線バスの旅コーナーで館山城を紹介。
- 29日 新収蔵資料展「あたらしい資料のご紹介」開催(～6月11日)。入館者9438人

◆5月

- 19日 「チユバチユバワンダーランド」(チバテレビ)撮影。館山城と甲冑着用体験を紹介。
- 23日 NHKラジオ千葉放送局で新収蔵資料展を紹介。学芸員が生放送に電話出演。

◆6月

- 7日 館山市文化財保護協会共催の「安房学講座」開催(全8回)。参加者432人
- 17日 歴史教室「古文書を読んでもよう」開催(全10回×3クラス)。参加者1280人
- 24日 「ミュージアム・サポーター甲冑士養成講座」開催。参加者4人

◆7月

- 15日 収蔵資料展「どうぶつ大集合」開催(～9月3日)。入館者8695人
- 16日 入館者200万人突破。館山

城前で認定式を開催。

- 27日 図書館との共同企画「なつやすみ宿題大作戦」開催(博物館編。図書館編は8月10日に開催)。参加者38人
- 29日 歴史体験教室「活弁八犬伝」開催(全2回)。参加者33人
- 2日 ◆8月 山梨県の慈眼寺へ資料調査。
- 9日 ◆9月 那古寺開創1300年記念展「繡字法華経の世界」受け継がれた宝物」開催(～10月1日)。入館者3468人※講演会も同日開催。

◆10月

- 20日 木更津市郷土博物館金のすずかに真里谷武田氏関係資料貸出。
- 26日 千葉県立現代産業科学館に漁業関係資料貸出。

◆11月

- 14日 新・地区展「富崎―海と生きる人々」開催(～11月26日)。入館者6169人
- 5日 ◆11月 歴史教室「わたしの町の歴史探訪―相浜・布良―」開催。参加者20人

◆12月

- 6日 市立二中・市立三中生徒3名

が職場体験(～8日)

- 13日 三芳中学校生徒1名が職場体験(～15日)。
- 22日 市立館山小学校児童2名が職場体験。
- 25日 市立北条小学校児童2名が職場体験。
- 25日 ◆12月 博物館大掃除。
- ◆平成30年1月
- 1日 館山城正月臨時開館(～3日)。戌年にちなんで、城前で八犬伝グッズを販売。
- 26日 館山城で「ジャキット」(チバテレビ)撮影。
- ◆2月
- 3日 明治150年記念企画展「近代化する館山―明治時代の殖産興業―」開催。入館者7515人
- 9日 城山公園を運行するシャトルカーに使用する錦絵撮影。
- 10日 小学生による「八犬伝」活用プロジェクト活動紹介展開催。(～3月11日)
- 13日 博物館協議会開催。
- 14日 和歌山県立紀伊風土記の丘による資料調査。
- 20日 南房総市立南三原小学校からツナツリの寄付。2階に展示。

たてはくニュース!

入館者200万人突破!

昭和57年10月31日に館山城(八犬伝博物館)が開館して以来、入館者数が200万人となり、7月16日に金丸謙一市長から認定証を、出山裕之教育長からは記念品として八犬伝グッズを、溝江晃館長からは優待券が贈呈されました。記念すべき200万人目は市川市の石渡政幸さんご家族です。ご家族の中にはなんとワンちゃんが。これはもしかして、八犬伝に登場する犬の八房のお導きでしょうか。

速報! ミュージアムグッズ人気No.1が決定

博物館では、展示図録やオリジナルグッズなどを常時100種類以上販売しています。今回はその中で人気ベスト3を発表します。

1位は、昨年発行された『八犬伝まるわかりBOOK』。「これだけ読めば八犬伝が(ほぼ)まるわかり」のキャッチコピーでおなじみの解説本。発売当初から注文が殺到している、今年度のベストセラーです。2位は錦絵シール。博物館所蔵の錦絵をシールにしたもので、外国からいらっしゃったお客様にも人気の一品です。3位は手ぬぐい。模様になっている子犬は、本物の『南総里見八犬伝』第六巻の表紙に描かれている由緒正しい(?)子犬です。

